

# 「台頭」と古墳群の遺物

□東夷の酋長

陸奥話記の冒頭。「6力郡の司安倍頼良というものあり。これ忠好の子なり。父祖忠頼は東夷の酋長」。東夷つまり蝦夷の酋長というのが、陸奥話記の冒頭部分である。これをどう捉えるか。

胆沢川の北、この金ヶ崎の地に多くの古墳群がある。この古墳群とそこから出てきた遺物を通して、安倍氏がどういう形で力を得てきたのかを考えてみたい。

加えて、陸奥話記には811(弘仁2)年に和賀、稗貫、紫波が置かれたという記述が出てくるが、これが非常に重要な意味を持っている。奥六郡というのは、単純に胆沢、江刺、和賀、稗貫、

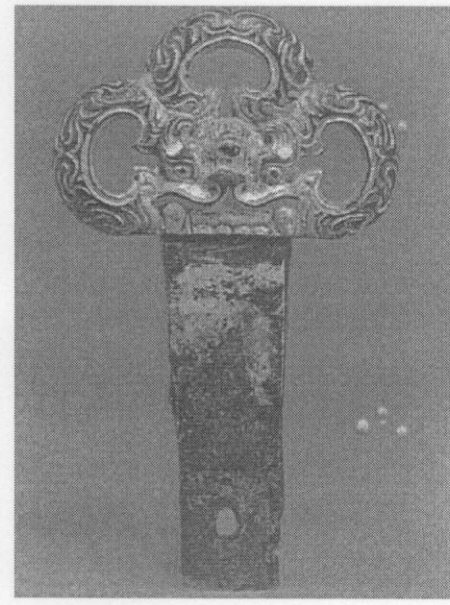
岩手、紫波の六郡ではないという話をさせていた

□北の出土品

今回の指定区域の東側に接して、縦街道古墳群があり、大正時代に掘ら

れている。そのほか西根横道地内の五郎屋敷古墳群が明治28年に調査されており、考古学雑誌の中に「五鈴鏡」という鈴のついた鏡、埴輪の巫女が腰につけているような五つの鈴を持った鏡が紹介されている。東北地方では非常に出土例が少ない。

道場古墳群―金ヶ崎町  
西根藤巻地内は、明らかに7世紀の古墳。馬具や須恵器も伴っている。これらの古墳群を分布図にすると、群集墳、終末期古墳群といわれるものが集中してみられるのは、胆沢川以北、沿岸部、北海道までである。  
蔵手刀といわれるような、柄が蔵のような形をした独特の刀がある。こ

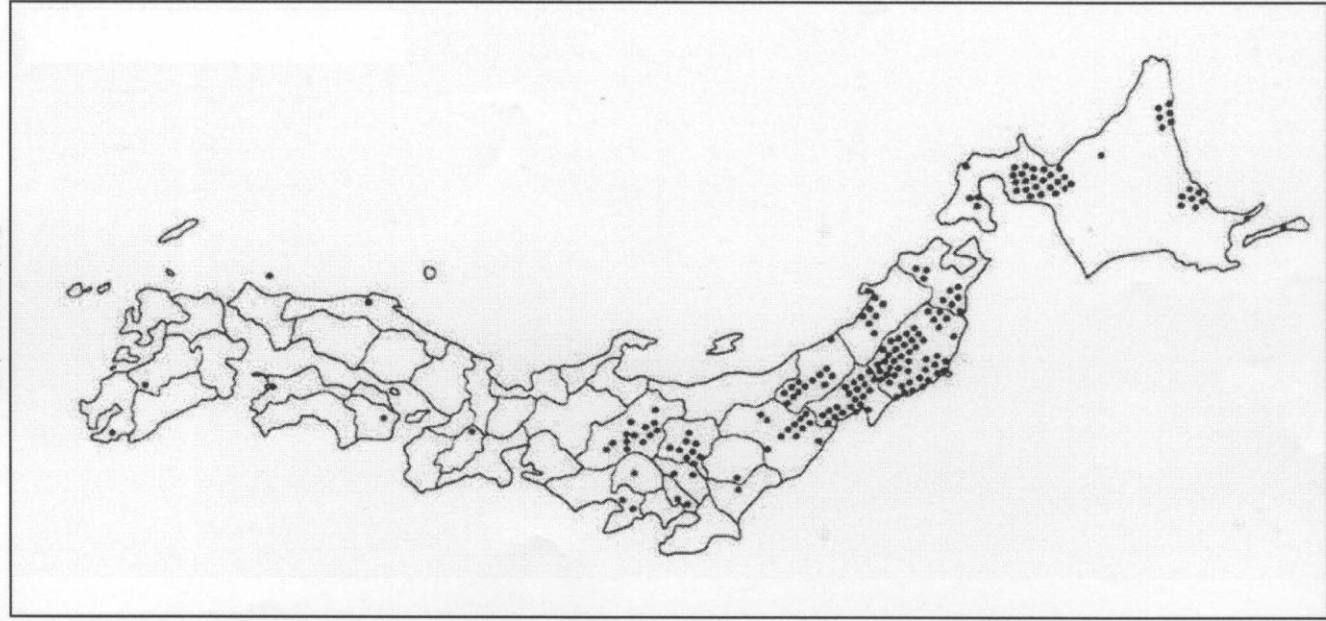


【写真①】獅子式三累環頭大刀の把頭(丹後平古墳) 八戸市教育委員会 1990年)

れは全国で270例ほど知られているが、その多くは東北地方北部や北海道から出土している。特に北海道は、オホーツク沿岸、いわゆる北のオホーツク文化にまで蔵手刀がみられる。正倉院の中にも入っているのでも、日本にもあるが、形も違うため、西日本のものとは違うと考えている。

□海渡るルート

古墳群から出てくるものには、8世紀のスズ製品、スズでできた腕輪や耳飾りがある。これは、東北地方北部の古墳群と北海道石狩低地帯、さらにオホーツク沿岸に圧倒的に分布している。スズという鉱物は、日本では採れない。沿海州(ロシア極東部)に行かなければ採れない。そうす



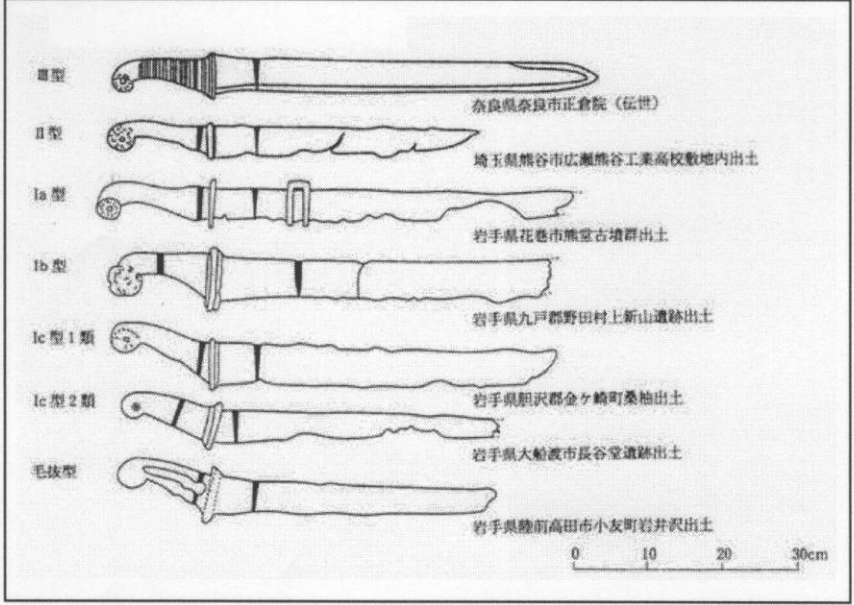
蔵手刀の分布図

## 金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵を知る

―町民大学2013 シンポジウムより―

5

高橋 信雄氏 (花巻市博物館長)  
蝦夷社会から安倍氏へ ①



蔵手刀の分類